

「ひたすら愛に生きる」(キリストの弟子の生き方④)

マタイの福音書 5章27～30節

「姦淫」とは、結婚している人が自分の夫や妻以外の人との関係を持つことです。しかし十戒の「姦淫してはならない」との戒めが「殺してはならない」「盗んではならない」同様に、「してはならない」と命じられなければならないところに人間の罪と無力さがあるのでしょう。

私たち一人一人が神に造られたものにふさわしくその生命と人格が尊ばれるように、ひたすら愛に生きなさいと語られています。



① お互いの人格を尊ぶために

“また、神である主は言われた。「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」…それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。そのとき、人とその妻はふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。” 創世記2:18～24

② 互いの愛に生きるために

“『姦淫してはならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。情欲を抱いて女を見る者はだれでも、心の中ですでに姦淫を犯したのです。” マタイ5:27-28

“「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」ということばに要約されるからです。” ローマ13:9

③ 大切なものを大切にするために

“もし右の目があなたをつまずかせるなら、えぐり出して捨てなさい。からだの一部を失っても、全身がゲヘナに投げ込まれないほうがよいのです。もし右の手があなたをつまずかせるなら、切って捨てなさい。からだの一部を失っても、全身がゲヘナに落ちないほうがよいのです。” マタイ5:29-30

“兄弟たち。あなたがたは自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕え合いなさい。律法全体は、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という一つのことばで全うされるのです。”
ガラヤ5:13-14

<話し合ってみましょう>

- ・この箇所でのイエス様のことばはかなり厳しく極端な言い方にさえ感じられますが、イエス様をしてこのように語らせる私たちの姿について思い巡らしてみましょう。